



マサバ(対馬暖流系群)

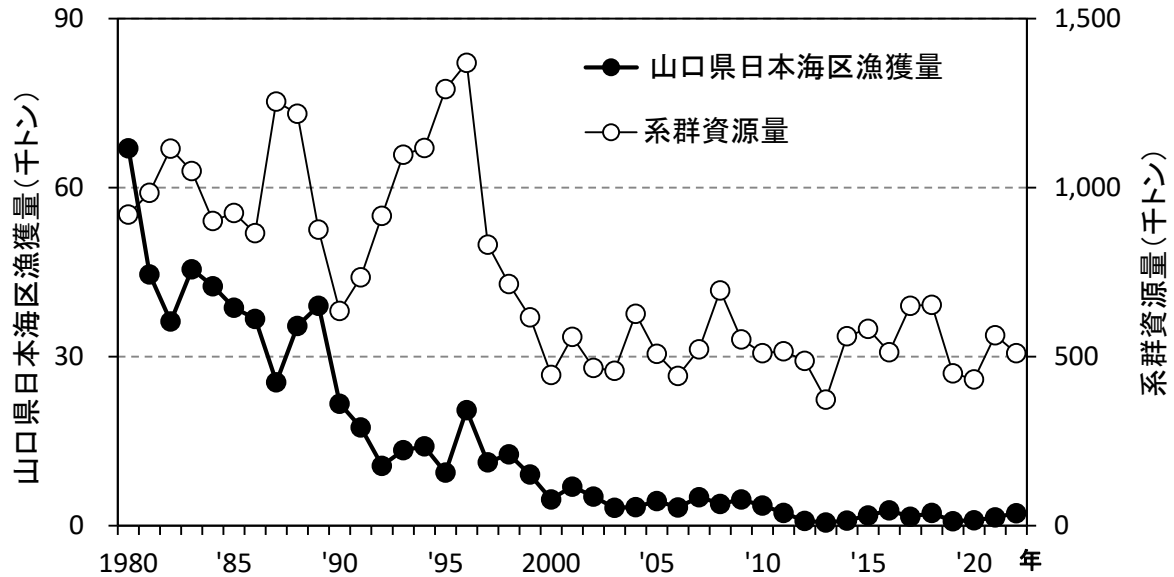


図 山口日本海側さば類漁獲量(漁業・養殖業生産統計年報、マサバ主体、ゴマサバ含む)及び対馬暖流系群マサバ資源量((国研)水産研究・教育機構資源評価報告書)の推移

【漁業】さば類は主にまき網で漁獲される。近年、初夏と秋にサバ子(尾叉長30cm以下)が主に漁獲されている。

【漁獲量】山口県日本海側のさば類(ゴマサバを含む)漁獲量は、1980年には67,000トンであったが、その後は著しく減少し、1999年以降は1万トンを下回った。2013年には過去最低の586トンまで低下したが、その後は800~2,700トンとやや増加し、2022年には2,233トンであった。

【資源状態】資源量は1973~1996年には、概ね100万トン前後で安定的に推移したが、2000年以降は50万トン前後に留まり、2022年は51万トンであった。

2022年の親魚量(SB)は最大持続生産量(MSY)を実現する親魚量(SB_{msy}:目標管理基準値)を下回った。また、2022年の漁獲圧(F)はMSYを実現する漁獲圧(F_{msy})を上回った。親魚量の動向は横ばいと判断された。

2022年漁獲量(万トン)	MSY(万トン)	2022年親魚量(万トン)	目標管理基準値(万トン)	限界管理基準値(万トン)	禁漁水準値(万トン)
21.2	32.3	19.9	31.0	14.3	2.2